

編 集 後 記

医師の働き方改革猶予の期限が2年余りに迫ってきている。医業はもともと仕事と研鑽の境界が曖昧な業種であった。論文執筆を生業とする研究者は別であるが、ここにきて仕事と研鑽の区別を厳密に問われ、一般の臨床医にとっては論文執筆が仕事（業務）とは認められにくい時代になった。指導医側も強制的に論文を書かせることを躊躇してしまう。

それでも論文を書くことの意義は何であろうか。いささか古い言葉ではあるが結局は「学而不思則罔，思而不学則殆—学ぶだけで思考しなければ知識を活かせないし，自分で思考するだけで他人から学ぼうとしなければ危険である（論語）」ということであろうか。

今回は「老化細胞除去薬」，「高齢者てんかん」についての総説2編，「カナー型自閉スペクトラム症と発達行動介入」，「思春期のメディア利用」，「特老からの退所理由」についての現代的な問題を取り上げた論文3編，「半導体 PET/CT の偽陽性」を論じた症例報告1編の玉稿をいただきました。いずれも読み応えのある力作です。

(S.O.)

島根医学編集委員

児玉和夫， 貴谷 光， 浅野博雄， 大居慎治， 齋藤寛治，
齋藤洋司， 佐藤比登美， 小林祥泰， 椎名浩昭， 小阪真二，
井岸 正

島根医学

令和3年8月31日発行

発行者 島根県医師会
出雲市湖陵町
編集 編集者 児玉和夫
発行所 松江市学園南2丁目3番11号
有限会社 松陽印刷所